

陳舜臣さんを語る会通信

NO.144 Oct. 2025

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」

編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員

発行日 2025年10月20日

<http://www.eonet.ne.jp/~yuzo/>

陳舜臣(1924.2.18-2015.1.21)と司馬遼太郎(1923.8.7-96.2.12)

移情閣(孫文記念館)友の会主催で、7、8、9、10月と、月一で4回、「陳舜臣さんと神戸を歩こう」と題し、兵庫県立のじぎく会館を会場に陳舜臣入門講座を開催しました。その第4回の資料として作成したのが、ここに掲載した「陳舜臣と司馬遼太郎」と「まず、こんな作品から読んでみよう!」です。

①【司馬遼太郎との出会い 上ハ時代の1年半ほど】

陳舜臣さんは1941年3月に神戸市立第一神港商業学校(旧制、5年制)を卒業し、4月、大阪外国語学校(旧制国立、3年制)印度語部に入学、上ハ時代(終戦までの約4年半、学校の所在地、天王寺区上本町八丁目に通った)が始まります(～43年9月末繰り上げ卒業。その後、終戦まで西南アジア語研究所助手。西南アジア語とはアラビア語、印度語など)。西南アジア語研究所助手は徴用逃れもあった?

「私は学校から嘱託という辞令をもらった。国立学校勤務にしておかないと、徴用にひっかかるかもしれないからと、説明された」(『道半ば』p.101)

司馬遼太郎■陳さん入学の翌(1942)年、司馬遼太郎さんが蒙古語部に入学してきます。司馬さんは、1940年に旧制大阪高等学校、1941年に旧制弘前高等学校を受験し、共に失敗していました。

1943年9月仮卒業し、11月学徒出陣、12月戦車第19連隊に入営、44年4月満洲へ。44年9月に正式卒業。敗戦後復員。(福間良明著『司馬遼太郎の時代』)

②【『街道をゆく21 神戸・横浜散歩、芸備の道』「陳徳仁氏の館長室」】



1982年取材時撮影 於:神戸華僑歴史博物館
右から、陳徳仁氏、司馬遼太郎氏、陳舜臣氏
神戸華僑歴史博物館所蔵

私が大阪の語学の学校に通っていた昭和十年代の後半、神戸から通学している学生のなかで、陳姓のひとつがふたりいて、どちらも温厚で秀才の評判が高かった。ひとりとは中国語を専攻していた陳徳仁氏であった。他のひとりとはインド語を専攻していた陳舜臣氏で、陳舜臣氏によると、神戸からの通学組のひとたちがこの同姓の兩人を区別するのに、わざわざ陳徳仁氏のほうを、男前の陳とよんでいたという。陳舜臣氏も決してぶおとこではないのだが、陳徳仁氏が鼻筋のおつた面長の容貌で、姿勢がいい上に、撓(しな)うような瘦身であったためにそういう符牒(?)がふさわしかったのだろう。

二十余年前、陳舜臣氏が江戸川乱歩賞を受けたとき、この賞の事務を主掌している講談社のS氏がわざわざ電話で報らせてくれた。

「あなたとおなじ学校だった陳さんが『枯草の根』という作品で賞をうけられました。」

陳舜臣氏が小説を書いていることを知らなかった(夫人以外、だれも知らなかったろう)ために、

「それはシナ語の陳さんですか、インド語の陳さんですか。」と、問い直した。S氏は、電話の震動板のおこうで笑いだした。

陳舜臣と司馬遼太郎(続)

③【東京転居を諦めた理由 司馬遼太郎の一言!?!】

父は作家になって幾度となく東京に引っ越すことを考えていた。毎年のように家族会議をしては結局神戸から離れないでいた。

大学時代からの友人である司馬遼太郎さんが、神戸の北野町にあった我が家によく遊びに来られて、父の書斎にこもって長々と話をしていた。部屋の中はタバコの煙が蔓延していて、私や妹がお茶などを持ってドアを開けると、煙で咳こむほどの大変な状態だった。

「神戸、関西から離れるのは賛成できないなあー」と司馬さんに言われたのが東京行きを諦めた大きな理由だったかもしれない。『かまくら春秋 No.579』(2018年)陳立人(舜臣氏令息)「父との歴史の旅」

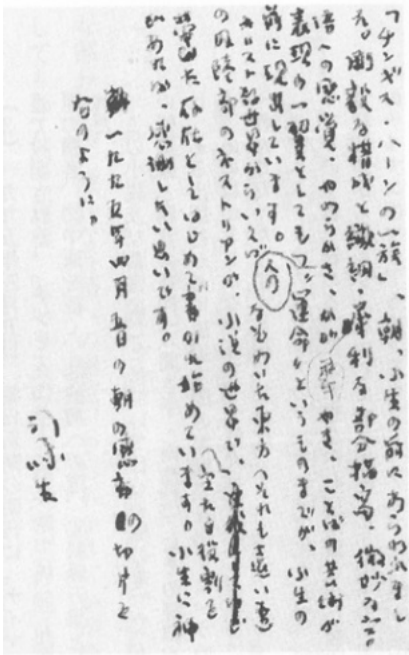
④【『チンギス・ハーン一族』の連載第1回を読んだ司馬さんの感動】

陳舜臣さんは一九九四年八月十日、宝塚歌劇場で講演中に脳内出血で倒れ、その後、不自由な手での執筆活動となります。一九九五年四月五日、『朝日新聞』に『チンギス・ハーン一族』の連載が始まりました。司馬遼太郎さんが、この初回の文章、「ナイマンのマリア」(一)を一読、その感動をはがきに記し、陳舜臣さんに、速達で出したのは、正にその四月五日です。司馬遼太郎の感動が、読み手に伝わってきます。

「チンギス・ハーン一族」、朝、小生の前にあらわれました。剛毅な構成と繊細・犀利な部分描写、微妙な言語への感覚、やわらかさ、かがやき、ことばの芸術が表現の翼としてもつ人の「運命」というものまでが、小生の前に現出しています。キリスト教世界からいえばなぞめいた東方(それも遠い東)の内陸部のネストリアンが、小説の世界で、主たる役割を帯びた存在としてはじめて書かれ始めています。小生に神があれば、感謝したいと思います。一九九五年四月五日の朝の感動の切片を右のよう。

「チンギス・ハーン一族」、朝、小生の前にあらわれました。

司馬生



『司馬遼太郎 アジアへの手紙』 書簡 40

⑤【「司馬遼太郎を送る会」 陳舜臣さんの弔辞】

司馬遼太郎さんは一九九六年二月十二日、腹部大動脈瘤破裂のため亡くなられます。72歳。同日は「菜の花忌」と呼ばれています。

陳舜臣さんは、三月十日の大阪ロイヤルホテルでの「司馬遼太郎を送る会」に、体調が悪く出席できず、かわりに弔辞を代読してもらいます。

鍾子期との「伯牙絶弦」の故事を引いています。

弔辞 陳舜臣

司馬遼太郎さん

上本町の大阪外語で知り合ってからもう五十年以上になります。はからずも同業者として同じ道を進んで来ました。

中国の福建を、韓国を、そして、近くは台湾を、あなたとともに歩いたことを思い出します。若いころの夢のなかには私たちに共通したものがあつたのでしよう。あなたは自分の夢をとして、私たちの前から去りました。悲しいことです。

あなたの大好きな菜の花のそばは春泥で湿っていると聞いていましたが、乾いてしまっていたんですね。

夢がさめると、琴の名人の伯牙のように自分の音楽の理解者がいないことをなげき、ただ二人で見たむかしの山や川を、心をいたためてながめるだけです。一首の詩を作って弔辞とします。

春泥 未 晒菜花边

伊マダサラサズ ホトリ
ミチヲオナジクス

伊マダサラサズ ホトリ
ミチヲオナジクス

伊マダサラサズ ホトリ
ミチヲオナジクス

※傍線は加筆

陳舜臣と司馬遼太郎(続々)

⑥【陳舜臣作品の舞台&小説作法 司馬遼太郎との違い】

《陳舜臣作品のベストセラー、『小説十八史略』》

陳舜臣作品のベストセラーの一作、『小説十八史略』について、集英社『陳舜臣中国ライブラリー 10』「自作の周辺」に次のような対談の一節があります。

順位	書名	刊行年	累計発行部数
1	竜馬がゆく	1963	2477
2	坂の上の雲	1969	1976
3	街道をゆく	1971	1219
4	翔ぶが如く	1975	1202
5	国盗り物語	1965	755
6	項羽と劉邦	1980	725
7	関ヶ原	1966	626
8	功名が辻	1965	531
9	世に棲む日々	1971	523
10	菜の花の沖	1982	513

発行部数は単位: 万、以下切り捨て

聞き手の「いろんな形式のものをトータルすると百万部以上になるんじゃないですか」との問いに、陳さんは、「それくらいにはなるでしょうね。毎日新聞社は、たくさん売らせてもらい、ありがとうございましたと、大きな革張りの記念本を特別に作ってくれましてね」と答えています。

《国民作家司馬遼太郎 と 華人作家陳舜臣》

『小説十八史略』の発行部数と左の「司馬遼太郎作品別累計発行部数表」の数字と比べると一桁違います。この差はどこから来るのでしょうか？

1. 国民作家と言われる司馬作品の時代背景・舞台には、『項羽と劉邦』など中国ものもありますが、その多くは、戦国時代とか江戸末期から明治初めなど、日本の歴史変動の節目です。一方、陳舜臣歴史小説のほとんどは、海域も含め、中国及びその周辺が舞台です。

2. 『竜馬がゆく』『坂の上の雲』など、司馬作品の多くがテレビドラマ化され、それも、例えば『竜馬がゆく』など、NHK、民放などいろんなメディアからいろんな俳優で放映されています。映画化も多いです。ところが、陳作品で話題になった作品といえば、NHK大河ドラマ『琉球の風』ぐらいです。



3. 司馬作品では、坂本竜馬ほか人物が主役 それに対し 陳作品では、時代が主役

このことは、陳舜臣作品の長所で、他の歴史小説家の作品にない魅力ですが、逆に、主人公、登場人物に感情移入しにくく、一体感、盛り上がり欠け、大河ドラマのような茶の間の娯楽向きという点では、弱点になるのかもしれない。

時代が主人公なのです。描かれている土地・人々の生活(風土・文化)、

琉球国中山王尚寧に仕える一方、南海王国(国家の枠を超えた交易王国)を夢見る琉球の新しい時代の若者、架空の人物ですが、啓泰が、一応、主人公ということになっています。しかし、読んでいてそうとも思えないのです。と言って、啓泰に代わる主人公らしき人物も見あたりません。『阿片戦争』『太平天国』ほか、多くの陳舜臣作品について言えることですが、しいて言えば、

《『琉球の風』の主人公はだれ?》

つまり、NHK大河ドラマ『琉球の風』は原作があつての企画ではなく、先に、沖縄の施政権返還20年を記念するNHKの企画があつての執筆だったことがわかります。

「大河ドラマ『琉球の風』(1993年放映)の原作を陳舜臣先生が書き下ろすことになりました、との連絡がNHKから入った(中略)。このテーマを短期決戦で書けるのは実績から見ても陳先生しかないはずだ、と助言していたので、そのとおりになったことはうれしかった」

琉球大学教授高良倉吉氏は、「歴史を生きた人々への眼差し」で、次のように記しておられます。

《『琉球の風』誕生秘話》

陳舜臣小説(及び一部エッセイ) まず、こんな作品から読んでみよう!

作品名ほか	備 考	冊子頁※1	陳舜臣さんを語る会通信 No.	講談社「陳舜臣全集」	集英社「陳舜臣中国ライブラリー」
■推理小説“陶展文もの”		10、39	51、52		
・枯草の根	江戸川乱歩賞		43、51	②①	
・三色の家			51	②①	
・くたびれた縄			52		
・ひきずった縄			52		
・縄の繃帯			52		
・割れる			52		
・虹の舞台			51	②①	
■その他の推理小説		39			
・玉嶺ふたたび	推理作家協会賞		41	①⑨	
・孔雀の道	推理作家協会賞		41	②②	
・青玉獅子香炉	直木賞		19	②③	②⑨
・怒りの菩薩	台湾が舞台		3、48		
・他人の鍵			68	①⑨	
・長安日記	賀望東事件録		53	⑥	
■推理小説短編		39	89	②③	
■中国歴史もの		40			
ものがたり史記			56		①⑥
ものがたり唐代伝奇			56		①⑥
ものがたり水滸伝			56	⑦	①⑥
小説十八史略	文庫本なら6巻		62	①②③	⑩⑪⑫
小説十八史略 傑作短編集	講談社文庫		62		※2
小説マルコ・ポーロ			35	⑧	①⑧
諸葛孔明			26		①⑤
曼陀羅の人	空海入唐を描く		21	⑥	
■日本&中国が舞台		40			
残糸の曲			15	①⑥	
桃花流水			16	①⑦	⑦
相思青花			44		⑧
夢ざめの坂			45		⑨
■エッセイほか		40、41			
・青雲の軸	自伝小説	3	1		⑨
・道半ば		3	1		
・神戸ものがたり		4	69		
・神戸わがふるさと		4	69		

※1 冊子は、陳舜臣入門講座のテキスト、「陳舜臣さんと神戸を歩こう」です

※2 二つの全集には入っていないが、文庫版が県立図書館ほか、公立図書館数館で所蔵されています

●上の画像は『桃源亭へようこそ 中国料理店店主・陶展文の事件簿』（徳間書店2024）の表紙。「くたびれた縄」「ひきずった縄」「縄の繃帯」「崩れた直線」ほか、及び特別収録「幻の百花双瞳」など7作を収録

●上掲QRコードを取り込む→「中国の友人たち」トップ画面が表示。左端、陳舜臣さんの画像をクリック→「陳舜臣さんを語る会通信」のバックナンバー一覧が表示。左端の数字をクリック→該当する通信が表示